



■基礎データ

タイトル	実際に身を守って、自分の行動を振り返ろう	
ねらい (学習目標)	1. 竜巻に関する事前学習を生かし、竜巻接近の緊急放送を聞いた時に自分の判断で自分の身を守る対応行動を習得させる（竜巻発生を認知した時の適切な行動を学ぶ） 2. 実践訓練（ショート訓練）での自分の対応行動を振り返る	
対象学年	小学校高学年（「指導上の留意点」の表現を変更することで低中学年や中学生にも応用可）	
教科・イベント等	対応行動訓練・事後学習（総合的な学習・特別活動）	計45分
学習形態	全員（事前指導）→全員（訓練）→全員（ワークシート）→全員（発表）→全員（授業）	
準備	竜巻効果音（気象庁 DVD「急な大雨・雷・竜巻から身を守ろう！」収録の竜巻動画）、ワークシート「訓練を振り返ろう!」、アンケート「竜巻アンケート」、授業補助教材など	

■学習の流れ

構成・学習活動の内容	指導上の留意点（主な発問と子どもへの援助）
導入（5分）	
1. 訓練のための事前学習（5分） ※訓練を休み時間や抜き打ちで行う場合、事前に指導しておく 学習のポイント1「事前学習のポイントを振り返る。」	<p>「今日は、竜巻が学校に接近してきた想定で避難訓練を行います。訓練は、緊急放送があるので、竜巻から身を守る方法を自分で考え、自分の判断で安全な場所へ避難する行動をとって下さい。」</p> <p>「訓練で大切なことは、放送を聞いた時、自分のいる場所では、竜巻によってどのような被害が起こるのかを想像（イメージ）する（できる）ことです。」</p> <p>「もう一つは、竜巻が移動するスピードはとても速いため、放送を聞いてから安全な場所へ移動する時間があるのかを、自分で判断する（できる）ことです。」</p> <p>「移動できる場合には、これまで学習したことを思い出して安全な場所へ避難します。移動できないと判断した時や、近くに身を守る物や身を隠す場所がない時には、どうやって身を守ればよいのでしょうか。」 ※何人かに発表させてもよい。</p> <p>「その場で身を守る行動は、できるだけ危険な場所から離れ、頭や体（首）を守る安全行動『シェイクアウト』（だんごむし）でした。いつ、どこにいても行動は同じです。竜巻から自分の身を守れるようにして下さい。」</p>
学習のポイント2「緊急放送をしっかり聞くことの大切さを理解する。」	<p>「避難する時に注意することがあります。竜巻接近の緊急放送や避難を誘導するための放送をしっかり聞くことです。竜巻がどの方向から学校に向かっているのか、どこが竜巻によって被害を受けて危険な場所になっているのか、自分の身を守るための放送を聞き漏らさないことです。」</p>
学習のポイント3「他者を助ける行動を理解し、共助の意識を高める。」	<p>「もう一つあります。訓練の時、近くに先生がいない場合もあります。そんな時はどうしますか。普段生活している中で、近くに大人がいない場合もあります。その時には、慌てずに、自分の判断で行動することが大切です。また、近くに低学年（学校外ではお年寄りなど）がいたら、声を掛けて一緒に行動してあげて下さい。」</p>



展開1 (10分)

2. 竜巻接近を想定した対応行動訓練 (10分)

学習のポイント1「放送をしっかりと聞きとり、その場に応じた対応行動をとる。」

学習のポイント2「慌てずに、自身の判断で行動する。」

学習のポイント3『お・か・し・も・ち』のルールを守り行動する。」

※学校内の安全確認、避難経路の確認等、マニュアルに沿った教員の行動を実際に行うことで、より実践的な訓練となる。

【緊急放送】

「訓練、訓練、訓練。学校の近くで竜巻が発生し、校庭の方向から学校に近付いています。児童は直ちに活動をやめて、安全な場所に避難して下さい。」

※竜巻が接近してくる方向・目印を示す。

※教職員も対応行動をとり、児童の対応行動を観察する。

※対応行動ができない児童への注意、自力で避難できない児童の行動に気を配る。

【竜巻効果音】

※竜巻の効果音が流れるまで（猶予時間）に対応行動をとらせる。

【緊急放送】

「訓練、訓練、訓練。竜巻は通過しました。現在、校舎内の安全確認をしています。児童はその場で引き続き待機して下さい。」

※待機したまま、放送を静かに聞かせる。

【緊急放送】

「校舎内の安全が確認できました。児童の皆さんは、自分の教室に戻して下さい。このあと訓練の振り返りを行います。教室にいる児童は、カーテンを開けて下さい。」

※教室外にいる児童を速やかに教室へ誘導する。

展開2 (25分)

3. 実践訓練での自分の対応を振り返る

3-1. ワークシート1番 (3分)

「それでは、今日の訓練を振り返ります。」

□ワークシート「訓練をふりかえろう！」を配布

「プリントの1番を見て下さい。今日の訓練について、①から④まで4つの質問があります。自分に当てはまるところに丸を付けて下さい。」

※低学年は、一つずつ問題を読みながら丸を付けさせてもよい。

3-2. ワークシート2番 (1分)

「次に、プリントの2番です。竜巻発生（接近）の放送を聞いた時、竜巻はどのあたりにいると思いましたが。当てはまるところに丸を付けて下さい。」

※手を挙げさせ確認してもよい。

3-3. ワークシート3~4番 (10分)

「次に、プリントの3番に、訓練が始まった時にいた場所を書いて下さい。4番には、その場所で、どのように身を守りました。上の段には、どのように身を守ったのか書いて下さい。点線から下の段には、なぜ、そのような行動をとったのか理由を書いて下さい。」

3-4. 個人ごとに発表する (10分)

「では、何人かに発表してもらいます。竜巻の場所、自分のいた場所、その場でどのような行動をとったのか教えて下さい。」

※黒板に意見をまとめる。

※自分の意見以外は、赤や青鉛筆で記入させる。

3-5. まとめ (1分)

学習のポイント
竜巻の場所によって対応行動が異なることを理解する。

「いろいろな意見が出ました。竜巻の存在に気付いた時（遠くに見える）には、竜巻が接近するまでに少し時間があります。初めに考えた場所よりもっと安全な場所を探し、移動して身を守って下さい。逆に、直ぐ近くまで竜巻が来てしまった時には、移動する時間はないので、その場に応じた身を守る行動をとりましょう。」



まとめ (5分)

4. 竜巻から身を守るための対応行動の確認 (5分)

「さて、今日は、これまで竜巻について学習した竜巻から身を守る方法を訓練で確認してみました。竜巻によって飛ばされた物やガラスの破片から『頭や体（首）を守る』ことが大切です。最後に、もう一度確認しましょう。」

□授業補助教材 2・図 1-1～1-3 を掲示 (選択)

「教室にいる場合には、机などで身を守ることができます。『シェイクアウト』で行う行動『まず姿勢を低く (Drop)、頭を守り (Cover)、動かない (Holdon)』により、自分の身を守ります。まわりに身を守る物や場所がない時は、同じように「姿勢を低く・頭を守り・じっとする」の姿勢をとります。『だんごむし』のポーズで身を守ります。その場に応じた身の守り方をしっかり考え行動できるようにしましょう。」

「次の訓練では、竜巻がどこにいるのかを想像 (イメージ) して、その場でどのような危険が起こるのかを自分で考え (判断する)、そして安全な場所へ行動してみましょう。いつ、どこにいても、一人でいた時でも、しっかり行動できるようにして下さい。」

※被害が想像できずに行動しても訓練にはならない。

※低学年には「だんごむしのポーズ」で指導してもよい。

「今日の訓練で学習したことは、命を守るために大切なことです。大人にも大切なことなので、家に帰って家族の人と話をしてみましょう。」

■評価ポイント

- 1 竜巻発生時に自分の判断で自分の身を守る対応行動を習得できたか (ワークシート1番①～④)
- 2 実践訓練での自分の行動を振り返り、竜巻発生を認知した時の適切な行動が学べたか

■特記事項

- ・本指導案は、学習指導要領に沿った内容ではなく、竜巻から身を守る対応行動の仕方を現している
- ・竜巻はイメージしにくい現象であり、訓練後の振り返りによって対応行動を確認し理解を深める必要あり
- ・どうしてそのような行動をとったのか理由を分析することで、よりよい対応行動を指導することが可能